「目」を持ったAIとの新しい働き方

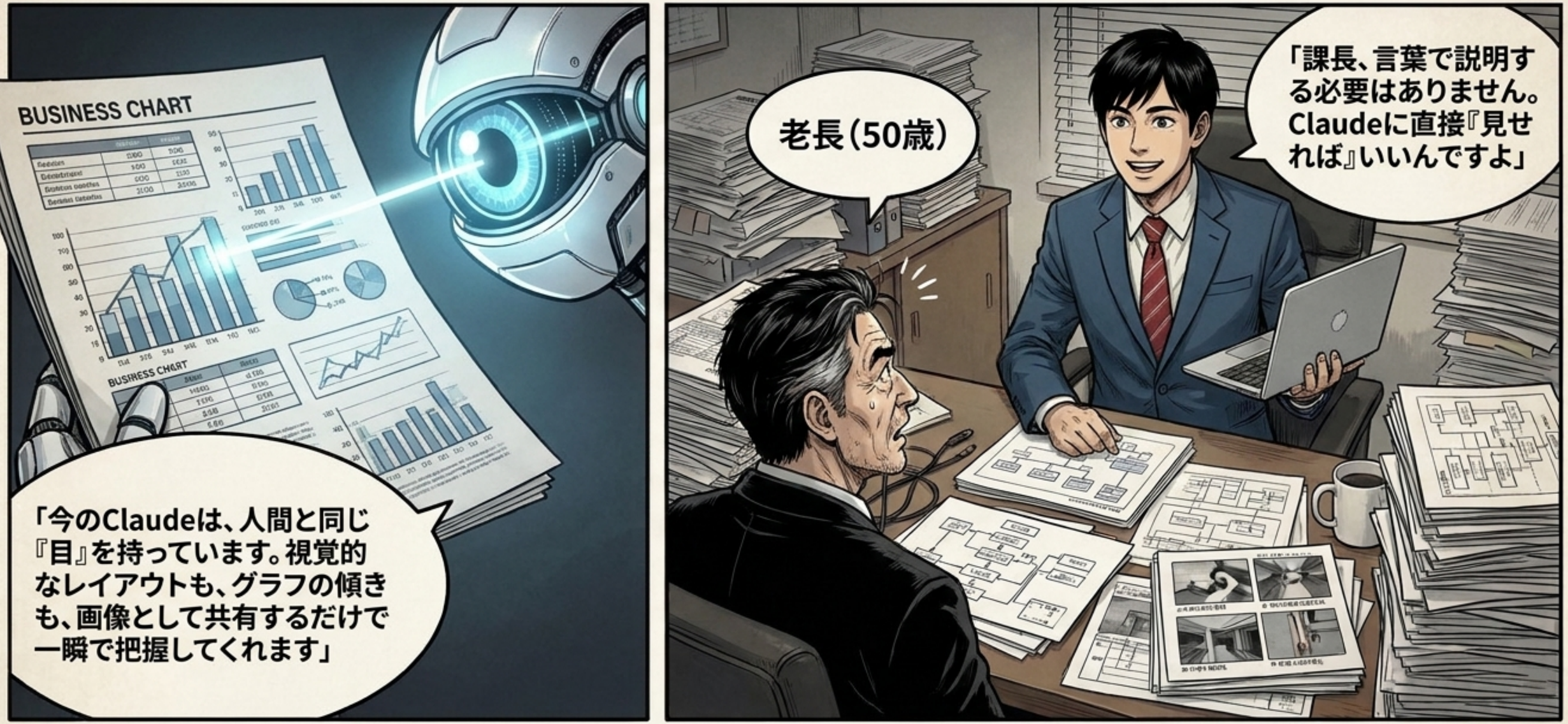
Claude マルチモーダル完全実践ガイド

～画像・PDF・視覚データを使いこなす～





複雑なレイアウトやグラフをテキストで説明するのは、膨大な時間と労力がかかる。



テキスト対話から「視覚データ（マルチモーダル）の共有」へ。AIとの協働が新次元に進化。

Claudeの「作業メモリ」という広大なデスク



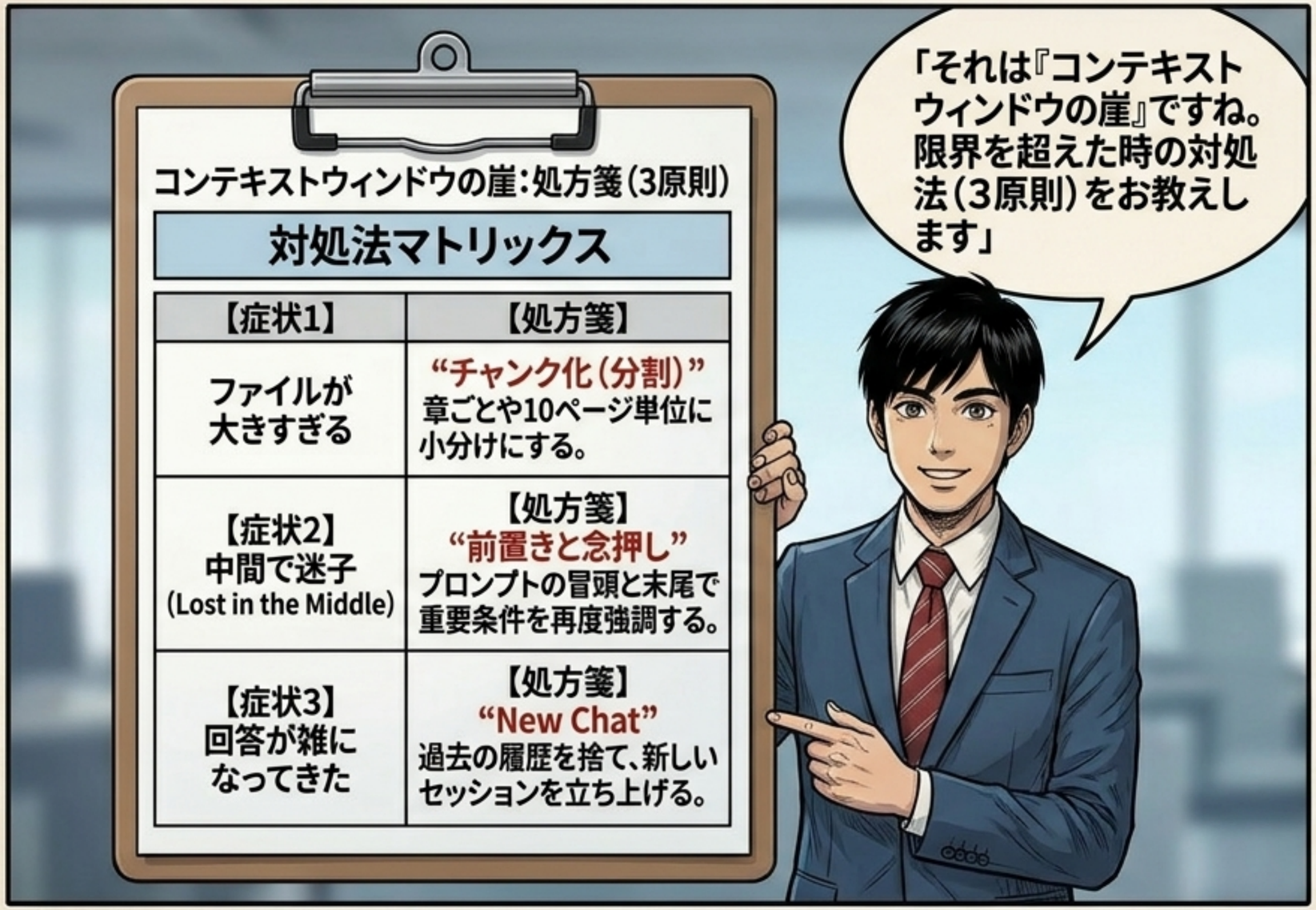
手元の資料をすべてデスクに広げ、あなたと同じ目線で考える「頼もしい協働パートナー」。





【アーティファクト（Artifacts）機能】

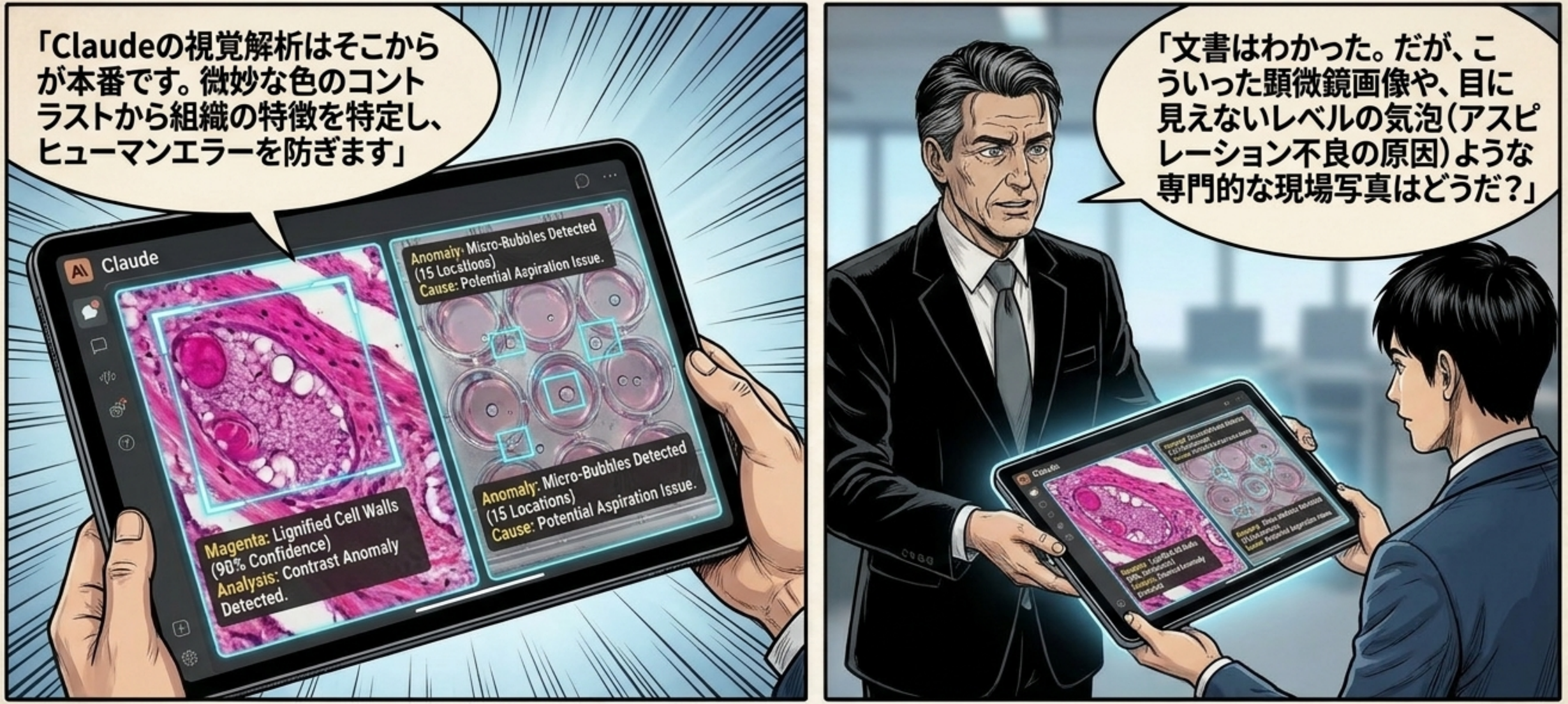
会話欄とは別に、画面右側に独立して綺麗な成果物（表やレポート）を表示・生成する機能。会話が流れても消えない！





【コンテキストウィンドウの崖：処方箋（3原則）】

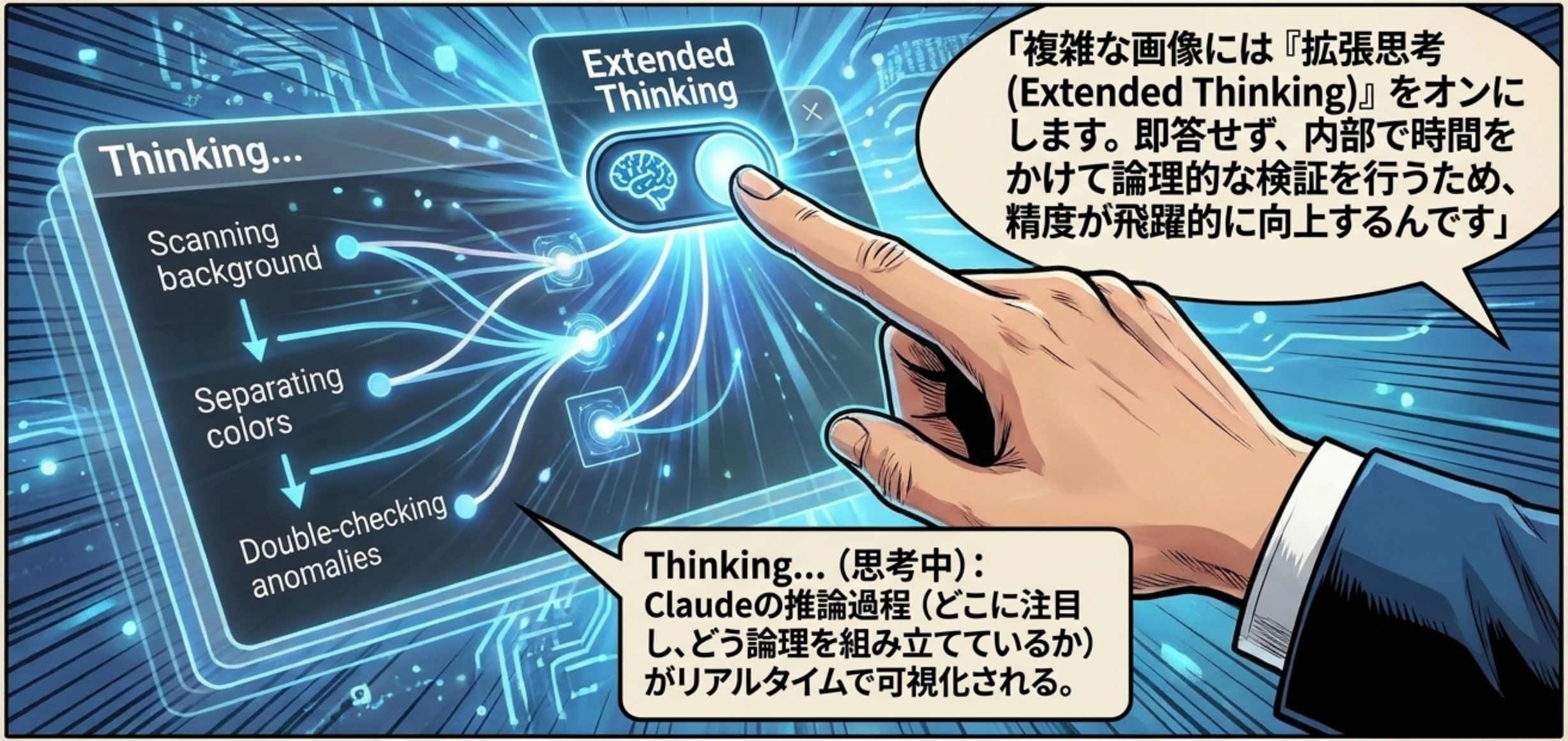
「それは『コンテキストウィンドウの崖』ですね。限界を超えた時の対処法（3原則）をお教えします」



【 Real World Use Cases 】

- 【事例】ライカ（Leica）顕微鏡画像から「木化した細胞壁（マゼンタレッド）」を識別。
- 【事例】Genentechの自動実験システムにおける、ウェル内の微小な異物・気泡の自動検出。

複雑な解析の精度を跳ね上げる「拡張思考」



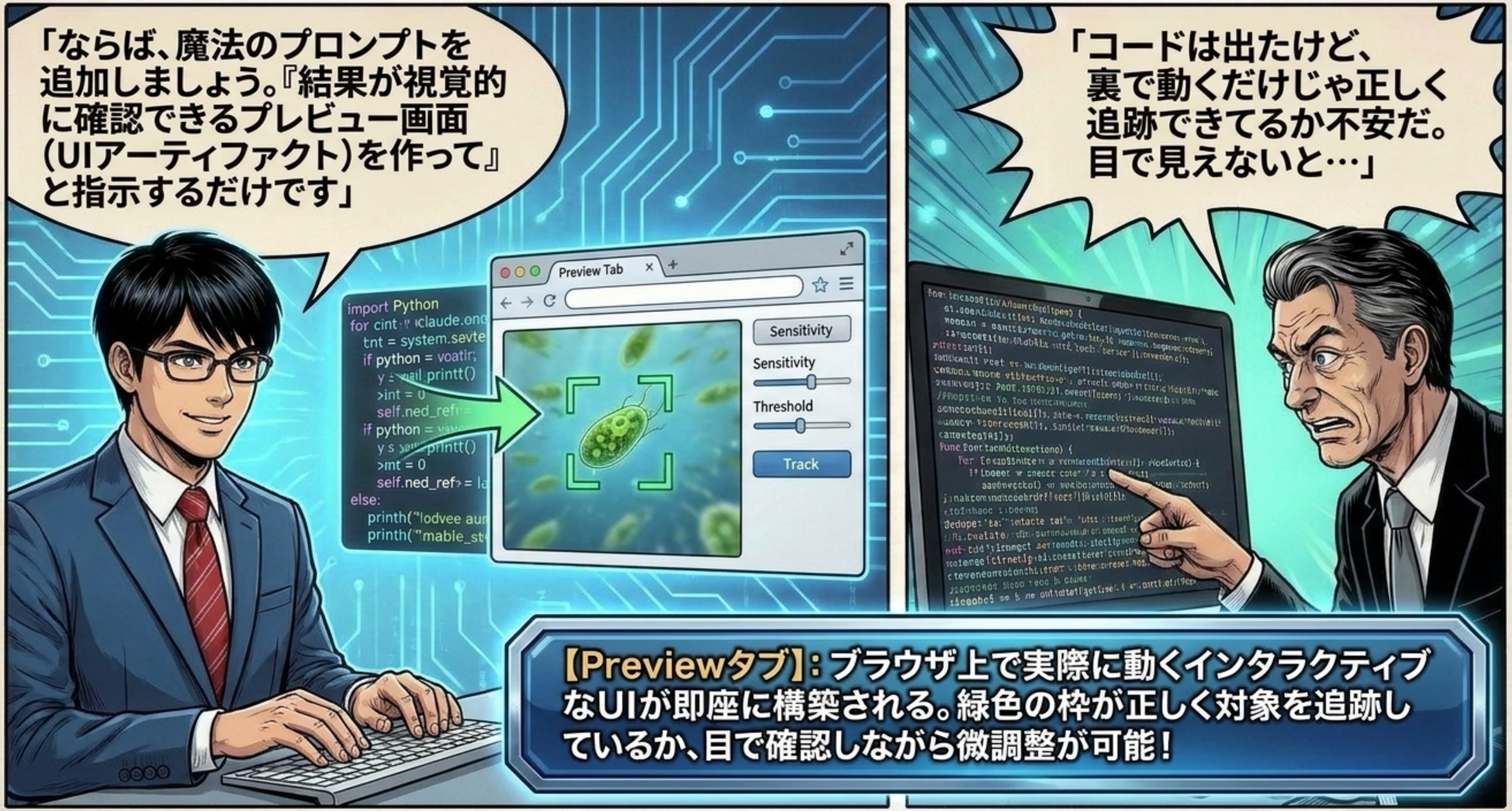

1. 人間によるファクトチェックの徹底：
最終決定と責任は人間が持つ。
2. 文脈（コンテキスト）の補完：
「正常時は気泡ゼロ」など前提
条件をプロンプトで伝える。
3.「確証なし」の制約：
「不鮮明なら無理に推測せず
『判断不能』と答えて」と指示する。
「ハルシネーションの危険は
常にあります。だからこそ、
視覚データ解析には
『3つの鉄則』が不可欠です」
「でも、画像がぼやけて
いる時に、AIがもっとも
らしい嘘（作話）をつく
リスクはないのか？」

「もちろんです。Claudeはただ
『見る』だけでなく、視覚データを
基にPythonなどのトラッキング
スクリプトを自動生成する
『行動するAI』でもあります」



「じゃあ、この水中で
動き回る藻類（algae）を
自動で追いかけるような
プログラムも作れるのか？」

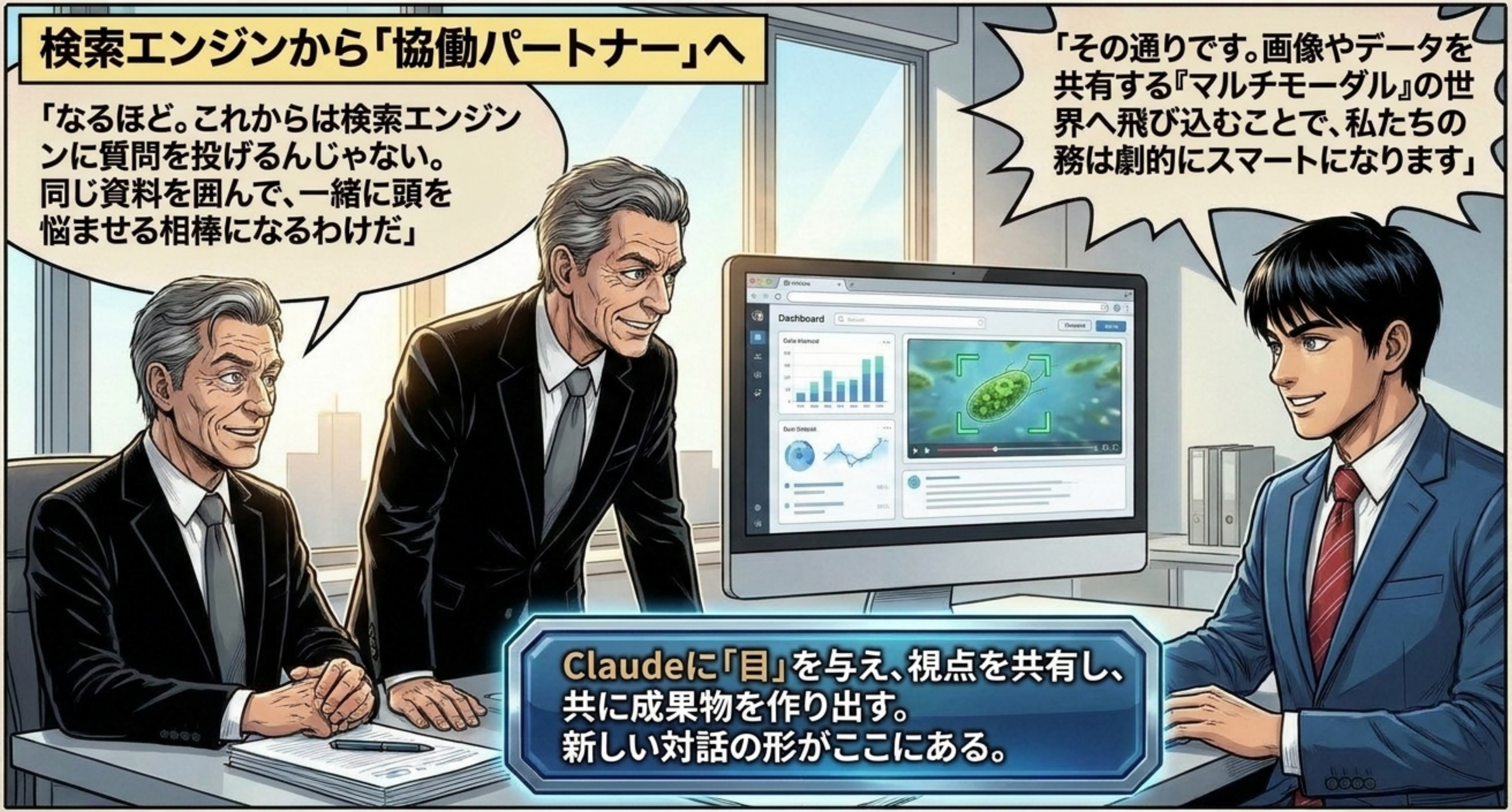



「ならば、魔法のプロンプトを追加しましょう。『結果が視覚的に確認できるプレビュー画面（UIアーティファクト）を作って』と指示するだけです」
Preview Tab
Sensitivity
Sensitivity
Threshold
Track
「コードは出たけど、裏で動くだけじゃ正しく追跡できてるか不安だ。目で見えないと…」
【Previewタブ】：ブラウザ上で実際に動くインタラクティブなUIが即座に構築される。緑色の枠が正しく対象を追跡しているか、目で確認しながら微調整が可能！

検索エンジンから「協働パートナー」へ

「なるほど。これからは検索エンジンに質問を投げるんじゃない。同じ資料を囲んで、一緒に頭を悩ませる相棒になるわけだ」

「その通りです。画像やデータを共有する『マルチモーダル』の世界へ飛び込むことで、私たちの務は劇的にスマートになります」



Claudeに「目」を与え、視点を共有し、
共に成果物を作り出す。
新しい対話の形がここにある。



さあ、今すぐ試してみましょう！【1分間アクション】

1. ☐ 手元にある画像（書類、写真、メモなど）を1枚選ぶ。
2. ☐ Claudeのチャット欄に「ドラッグ＆ドロップ」する。
3. ☐ 以下のプロンプトを貼り付けて送信！

> 「この画像に写っている要素を読み取り、主要なポイントを3項目以内の箇条書きで分かりやすくまとめてください。」

Claudeの「目」が読み解く感動的な体験を、今日からあなたのデスクで。